

29:15 あなたがたは、「主は私たちのために、バビロンでも預言者を起こされた。」と言っているが、

29:16 まことに、主は、ダビデの王座にしている王と、この町に住んでいるすべての民と、捕囚としてあなたがたといっしょに出て行かなかったあなたがたの兄弟について、こう仰せられる。

29:17 万軍の主はこう仰せられる。「見よ。わたしは彼らの中に、剣とききんと疫病を送り、彼らを悪くて食べられない割れたいちじくのようにする。

29:18 わたしは剣とききんと疫病で彼らを追い、彼らを、地のすべての王国のおののきとし、わたしが彼らを追い散らしたすべての国の間で、のろいとし、恐怖とし、あざけりとし、そしりとする。

29:19 彼らがわたしのことばを聞かなかったからだ。・・・主の御告げ。・・・わたしが彼らにわたしのしもべである預言者たちを早くからたびたび送ったのに、あなたがたが聞かなかったからだ。・・・主の御告げ。・・・

29:20 わたしがエルサレムからバビロンへ送ったすべての捕囚の民よ。主のことばを聞け。」

29:21 イスラエルの神、万軍の主は、わたしの名によってあなたがたに偽りを預言している者であるコラヤの子アハブと、マアセヤの子ゼデキヤについて、こう仰せられる。「見よ。わたしは彼らを、バビロンの王ネブカデレザルの手に渡す。彼はあなたがたの目の前で、彼らを打ち殺す。

29:22 バビロンにいるユダの捕囚の民はみな、

のろうときに彼らの名を使い、『主がおまえをバビロンの王が火で焼いたゼデキヤやアハブのようにされるように。』と言うようになる。

29:23 それは、彼らがイスラエルのうちで、恥ずべきことを行ない、隣人の妻たちと姦通し、わたしの命じもしなかった偽りのことばをわたしの名によって語ったからである。わたしはそれを知っており、その証人である。・・・主の御告げ。・・・」

ユダヤ人たちは神様に背いたゆえに、敵国から守っていただけなくなり、その結果滅ぼされてバビロンに連れていかれました。捕囚となったのです。しかし、それで終わりではありませんでした。その後にもまだ選択肢があったのです。

それは支配者となったバビロンの王に従うようにということです。それはユダヤ人にとっては屈辱でしょう。しかしそれもまた神様の御心であり、そのようにしてユダヤ人を教育訓練しようとしたようです。

しかし「コラヤの子アハブと、マアセヤの子ゼデキヤ」は、それとは違った預言をしたのです。「バビロンの王に仕えることはない。」と言うのです。主は彼らを明確の否定なさいました。

ユダヤ人たちは、自らの罪によってそのさばきを負いましたが、その後も主に従う道と従わない道がありました。このように、私たちも自分で蒔いた種のような出来事を負うことがあります。その時も、楽観的な考えでやり過ごそうとするのではなく、そこから主の御心に従って生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

